



令和元年 11 月 22 日

## 保険診療による「がん遺伝子パネル検査」の受付を 11 月 20 日から開始

がん患者の遺伝子変異を調べる検査として「がん遺伝子パネル検査」が 6 月に保険適用され、岡山大学病院においても 11 月 20 日から受付を開始しました。

保険診療で使用される遺伝子パネルとしては、「Foundation One CDx」と「NCC オンコパネル」があり、それぞれ評価する遺伝子の数や種類、調べる検体（がん組織と血液）が異なり、腫瘍の種類などにより使い分けることになります。

今回の保険診療は、固形がんのうち標準治療で効果が認められない例や希少がんなどの方が対象となります。

岡山大学は国内でもいち早くがん遺伝子パネル検査を行って参りましたが、検査の一部が保険適用となったことで、患者さんの負担軽減につながり、遺伝子変異情報に基づいた個別化医療である「がんゲノム医療」の普及が期待されます。

### ■発表内容

がん細胞に発生している遺伝子変異を明らかにする「がん遺伝子パネル検査」は、遺伝子異常に基づいた治療を検索し実施する「がんゲノム医療」において不可欠な検査です。これまでは自由診療として行ってきましたが、6 月に 2 つのがん遺伝子パネル検査「Foundation One CDx」と「NCC オンコパネル」がそれぞれ保険承認されました。

岡山大学病院は全国に 11 あるがんゲノム医療中核拠点病院の一つであり、これまで日本のがんゲノム医療の発展に重要な役割を果たしてきました。とくにがん遺伝子パネル検査に関しては、これまで自由診療として 100 例を超える実績があり、臨床、研究両面において、がんゲノム医療の先進施設の一つであります。この度、岡山大学病院においても、保険診療でのがん遺伝子パネル検査実施の準備を進め、11 月 20 日より、まずは岡山大学病院内の患者さんの検査を開始します。また、近いうちに院外からの紹介への対応も含めた体制を整え、当該地域におけるがんゲノム医療の普及と発展の一翼を担えればと考えております。今回保険適用になった 2 つのがん遺伝子パネル検査「Foundation One CDx」と「NCC オンコパネル」をきっかけに、がんの分子レベルでの理解と新たな治療薬の発見が進み、がんゲノム医療が加速することが期待されます。一方で、未だに解決できていない問題もいくつかあります。遺伝子異常が見つかったも、適切な治療薬が見つかる、あるいは治験に参加できる患者さんは 1 割程度に限られます。また保険診療の対象は固形がんのうち標準治療で効果が認められない例や希少がんの方ですが、全身状態を鑑みて限られたケースのみとなります。

患者さんやそのご家族には、このような現状をご理解いただく必要がありますが、院内の各部門・職種が丸となって治療につながる患者さんが 1 人でも増えることを目指しています。そのため、「患者申出療養制度」の積極的な活用や治験アクセスの向上にも尽力いたします。



## PRESS RELEASE

岡山大学病院 がんゲノム外来 HP

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/index42.html>

### <お問い合わせ>

岡山大学病院  
ゲノム医療総合推進センター  
准教授 遠西 大輔  
(電話番号) 086-235-7414



岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を支援しています。